

第104回全国高校野球選手権青森大会

# 「最後は気持ちで」

## 全6投手継投でしのぐ

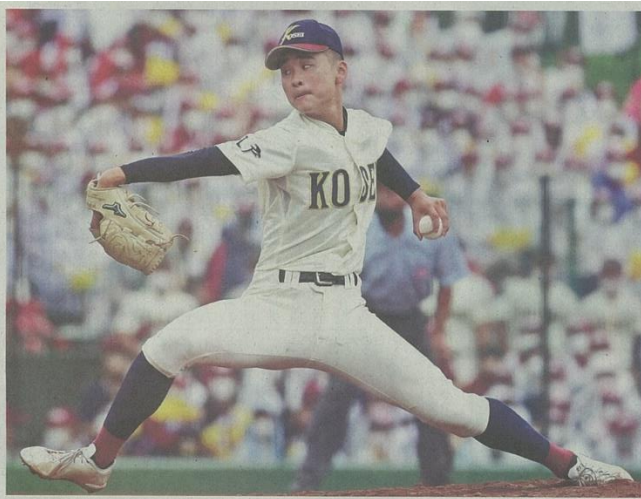
### 白球

まさに総力戦だった。八学光星はベンチ入りした全6投手の継投で、終盤の工大一の猛反撃をしのぎ切った。九回一死一塁一打同点のピンチで、6番手としてマウンドに送られたのが青森一の一洗平歩人主将。切れ味抜群のスライダーを武器に後続を断った。「まさか6人が投げるとは思っていなかったが、抑

えられて良かった。最後は気持ちで投げ切った」と安堵の表情を浮かべた。



5回工大一2死二、三塁、八学光星は渡部和幹（左）から雷井翼に継投する



先発の渡部和幹は五回途中までで7安打無失点と、しっかりと役割を果たした。「テンポ良くコースを突く、自分の持ち味を發揮できた」と渡部。2番手の雷井翼も1回を無失点ヒットニングだった。

だが、ここからこの日の空のよさに雲行きが怪しくなった。3番手、4番手が計5失点。5番手の1年左腕洗平比呂はアウトを一つも取れずに降板したが、満を持して継投した洗平歩が三振、中飛でリードを守り切った。

6投手をリードした捕手の文元磨生は「それぞれの投手で力の入りどころや緊張具合が違う。何度もマウンドに駆け寄って、落ち着かせるようにした」と強調。最後は主将が優勝を決めたことについては「みんなが納得する勝ち方だった」と笑った。（村公徳）

八学光星 工大一先発し、5回途中まで無失点と好投した八学光星の渡部和幹はるか夢



2回工大一1死一塁、八学光星は井坂泰三（右）からボールを受けた中澤恒貴（左）が一塁へ送球し、4-6-3の併殺とする

### 「青森県一の二遊間」目指し鍛錬

### 鮮やか併殺、序盤主導権

○：初回、内野安打と準打で1死一、二塁のピンチを迎えた八学光星。試合の行方を左右する緊迫した場面で、井坂泰三、中澤恒貴の鉄壁の二遊間が、4-6-3の鮮やかな併殺で切り抜けた。直後の先制音を呼び込んだ。

「打者のデータ分析を徹底し、捕手の配球も考えて、打球の転がる方向を予測していた」と井坂。降りしきる雨の中、冷静にゴロを処理し、どんぴしゃのタイミングでベースカバーに入った中澤にトス。中澤も正確無比な送球で封殺した。

一回にも併殺を決め、工大一の反撃の芽を摘んだ。「相手に行きそうな流れを、二つの併殺で逆に自分たちを持つてくれた」と中澤。「青森県一の二遊間になる」と誓い合い、鍛錬を重ねてきた2人。決勝の大事な局面で証明し、胸を張った。